要求分析と要求定義の必要性

要求分析・要求定義はなぜ必要性か

- ▶ 依頼者も開発者も要求のすべてを正確に伝え合うことは難しい。
- ▶ 依頼側が要求をうまく伝えられない。 開発側は必要な知識を提供したり、 質問をしたりして要求を引き出す。
- ▶ 依頼側の部署や立場により要求は一様でない。 各部署や立場の異なる利用者から要求を聞き出し、 分析して調整する。

構造化分析 (Structured Analysis)

「データの流れ」という観点からのソフトウェア

▶ 伝統的にソフトウェア開発は機能中心アプローチだった。

▶ クライアント/サーバシステムなどシステムが大規模、複雑に。 ソフトウェアの動作過程をデータの流れとして捉える。

構造化分析とは

▶ データフローダイアグラム、データディクショナリ、ミニスペックを用いて構造化仕様書を作成すること。

データフローダイアグラムによる要求の分析・定義

データフローダイアグラム (DFD) とは

▶ システムにおけるデータの流れと処理を図として表現する手法。

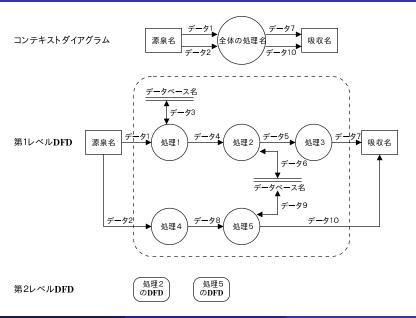
DFD をどのように作成するか

- (1) システムの源泉と吸収を 1 つのバブルに有向線分で接続する。 ここで、バブルはシステム全体の処理を表す。 (できた図をコンテキストダイアグラムという)
- (2) コンテキストダイアグラムのバブルを いくつかの処理とデータの蓄積で表す。 (できた図を第1レベルDFDという)
- (3) (必要に応じて) 第1レベル DFD の処理を より詳細な処理とデータの蓄積で表す。 (できた図を第2レベル DFD という)

DFD の記号

呼称 意味 記号 源泉名/ データの源泉/吸収 データの入力元とデータの出力先を表す 吸収名 データ名。 データフロー データの流れを表す データの蓄積を表す ファイル/データベース ファイル名/データベース名 データの処理を表す バブル 処理名

DFD



データディクショナリ (DD)

データディクショナリ (DD) とは

▶ DFD の有向辺につけられた各データについて、 DD の表記法に基づいて記述したもの。

DD の表記法

- ▶ データ1 = データ11 + データ12 データ1はデータ11とデータ12から成る
- データ2=[データ21 | データ22 | データ23][データ21 | データ22 | データ23]から1つを選択
- ▶ データ3 = データ31 + (データ32) データ32 は選択してもしなくてもよい
- ▶ データ4 = { データ41 }
 データ4は複数のデータ41から成る

ミニスペック

ミニスペックとは

▶ DFD の各バブル (下位レベルの DFD がある場合は下位レベルの DFD のバブル) について、処理を箇条書きで記述したもの。

▶ 記述するツールは 構造化言語、デシジョンテーブル、デシジョンツリー。

▶ 3 つのツールのうちから1 つを選んでミニスペックを作成する。

要求定義書をまとめる

要求定義書に含める項目

- システム化の目的
- ▶ システムの機能要件
- ▶ データフローダイアグラム (DFD)
- ▶ データディクショナリ (DD)
 - 「アクセス要求」、「英字」、「文字列」、「整数」、「小数」、「画像」、「グラフ」は定義されたものとして使ってよい。
- 開発スケジュール
- ▶ 各段階におけるリーダ
 - 要求分析と要求定義
 - 外部設計と内部設計
 - プログラミング
 - テストとドキュメント作成

要求定義書の提出・発表について

要求定義書 (PDF ファイル)

- ▶ 締切 5月9日(月)
- ▶ 提出先 moodle (https://moodle2.akashi.ac.jp/moodle/login/index.php)

プレゼンテーション資料 (PDF ファイルまたは PPT ファイル)

- ▶ 締切 5月9日(月)
- ▶ 提出先 moodle (https://moodle2.akashi.ac.jp/moodle/login/index.php)

プレゼンテーション

- ▶ 日時 5月10日(火)3限・4限
- ▶ 準備 授業開始までに教員用 PC にファイルをコピー
- ▶ 発表時間 10 分
- ▶ 質疑応答の時間 5分程度
- ▶ 計時係 交替で担当